

土佐源氏



坂本長利

SAKAMOTO Nagatoshi

1929年(昭和4年)、鳥根県出雲市生まれ。「ぶどうの会」「変身」等の劇団を経て、小劇場運動の先駆けとして活動。大劇場での商業演劇公演も含め、映画・テレビ・ラジオドラマなど、あらゆるシーンでその演技力と存在感を発揮してきた。60年以上の芸歴の中で、数多くの名だ

たる俳優と共演し、作家・演出家からも高い評価を得ている。テレビドラマでは『Dr. コーナー診療所』の村長役で親しまれた。2013年公開坪川拓史監督映画『ハーメルン』では西島秀俊、倍賞千恵子らと共に主演。代表作である独演劇『土佐源氏』は、1967年の初演以来、国内のみならず海外でも絶賛され、2018年88歳で上演回数は1200回を超えた。2011年の胃ガン手術後も精力的に舞台に立ち続け、呼ばれたら全国どこへでも出掛けて上演する「出前芝居」を展開中である。ほかに、作家・水上勉が坂本の独り語りのために書き改めた『越前竹人形』の上演も行っている。1985年紀伊國屋演劇賞特別賞、2000年旅の文化賞受賞、2017年ゆずはら未来大使(高知県高岡郡桝原町)就任。

2017年12月にNHK Eテレで放送されたドキュメンタリー番組「ETV 特集」は、大きな反響を呼んだ。

高鳴る太鼓の音の中から、観客は坂本長利に出会う。

情熱といったわりと狂気のなかですごした盲目の老人『土佐源氏』の一生が、1時間にわたるモノローグによって演じられる。この一人芝居は言葉の垣根を越えて訴えるものを持ち、強い感動的な体験を観客に与えた。日本語で演じられたにもかかわらず、舞台は深い共感を呼び、まるで魔法のように舞台上に絵画的に表現され、日本での出来事がまるで自分たちのことのように感じられた。日本語のリズムを聞くこともまた、非常に素晴らしい体験であった。日本語は世界の中でも非常にニュアンスに富んだもので、シェイクスピアの使った英語よりも素晴らしいものであった。

【1978年 スウェーデン新聞】

坂本長利は海外を含めて多くの地を放浪しながら、細心に、執念をこめて、『土佐源氏』を磨きあげていった。私の知る限りでも、その演技スタイルはずいぶん変わった。人間の生き方と演技とが、これほど離れがたく、まるで抱き合うかのように結びついて高い地点に達した例も、現代では稀である。

【1985年 演劇評論家・扇田昭彦】

1月5日 アフタートーク ゲストスピーカー



長田育恵

OSADA Ikue

てがみ座主宰・劇作家。『土佐源氏』の著者である民俗学者・宮本常一氏と彼を支えた渋沢敬三氏を描いた戯曲『地を渡る舟』にて2015年文化庁芸術祭演劇部門新人賞受賞。



扇田拓也

SENDA Takuya

演出家、俳優。てがみ座『地を渡る舟』公演の演出を手掛ける。父の故・扇田昭彦氏は50年前の初演『土佐源氏』を一番最初にメディアで紹介した演劇評論家である。

チケットのお取り扱い(ホームページ・電話)

響和堂

ホームページ <https://kyowado.jp> / 電話 080-4200-0808 (10:00~18:00)

料金 全席指定 4,800円

お客様による座席の指定はできません。開演時間に遅れて入場されると、指定席にご着席出来ない場合がございますので、予めご了承ください。お申し込み受付期間は、12月30日(日)迄です。以降は電話にてお問い合わせください。未就学児童のご来場はご遠慮ください。

チケット代金のお支払い口座

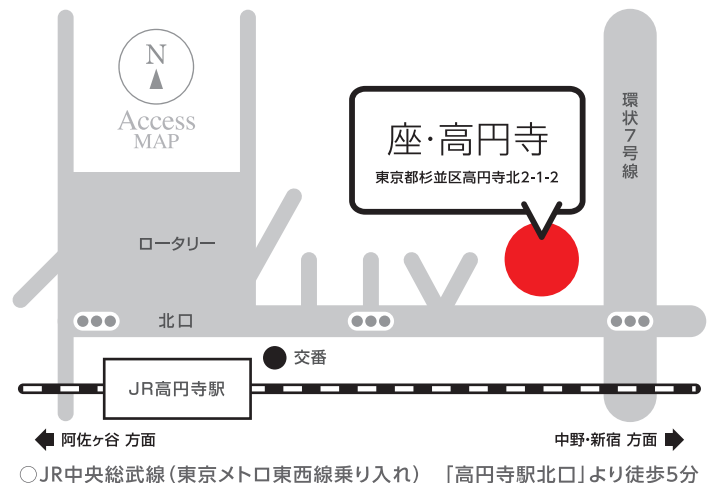
お申し込み手続き後、響和堂からの「受付完了」の連絡を確認されたから、7日間以内に下記口座にお振り込みをお願いいたします。入金確認後、チケットを郵送いたします。

- ① ゆうちょ銀行 総合口座 店名 〇一八
記号 10170 番号 27368361 キョウワドウ
- ② ゆうちょ銀行 振替口座
00130-3-616403 キョウワドウ

お問い合わせ

Tel. 080-4200-0808 (10:00~18:00)

E-mail. info@kyowado.jp



○JR中央総武線(東京メトロ東西線乗り入れ)「高円寺駅北口」より徒歩5分